

(様式2)

2 0 2 0 年 度 特 定 演 習

教 員 名	河野 秀孝
演 習 テ マ	<p>皆さんがこれまで履修した経済理論、特にミクロ経済学の応用で、毎日の経済現象を題材とした体系的論理的思考の訓練であると考えてください。授業では、代表的なモデルを思考の枠組みとして学習しながら、論理的思考を受身的に学ぶのではなく、少数の基本的概念から、皆さんの分析力強化を念頭に、授業を進めるつもりです。一見すれば、正しいまともな議論と思われるものでも、必ずしも説得力が充分であるとは限らないことにも気づいてください。</p> <p>また、本演習は、修士論文執筆準備のためのものでもあると考えてください。具体的な経済問題を例として、皆さんに、まず、論理的思考の枠組みとしてのモデルを構築してもらいます。次に、モデルから論理的に導出された仮説の検証をどのように行うかを考えてもらいます。仮説が自分の思い込みでなく、目的とした対象の本質を浮き彫りにしているかを、データでもって検証してもらいます。同時に、論理の説得力の観点から、仮説の有効性の検証がいかに重要であるかを認識していただきます。</p>
演 習 内 容 ・ 方 法 等	<p>論文執筆にあたっては、まず、論文のテーマが問題であり、よく絞り込まれていることです。そして、どのような視点から論理の枠組み（モデル）を構築し、どのような方法で仮説の検証をするかを考えてもらいます。学期中は、皆さんには以下のことを考えてもらいます。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 日ごろの経済現象を題材として、まず何が経済問題として分析の対象になりえるかを考えてみる。</li><li>2. テーマを絞り込むために関係ある先行文献を読みながら、どこまで研究されていて、どこが未だなされていないのかを明確にするため、問題背景の論文系譜を調べる。</li><li>3. テーマを絞込み、過去の論文との比較で、執筆論文の位置付け、視点の違いを明確にする。</li><li>4. 独自の視点を反映させた論理体系を構築し、検証可能な仮説を導く。</li><li>5. 必要なデータを収集し、計量的に仮説の検証をする。</li><li>6. 検証が棄却されれば、ステップ4に戻り、論理体系を再構築し、仮説の検証をする。</li></ol>